

日野市新たな学校づくり・社会教育施設づくり検討委員会（第8回） 議事録

1. 日時場所ほか

- (1) 日 時 令和6年11月15日（金）午後2時00分～午後4時00分
- (2) 場 所 日野市役所本庁舎5階 506会議室
- (3) 出席委員 上野淳委員、中澤正人委員、丹間康仁委員、川島清美委員、山口晶子委員、佐野礼子委員、佐藤和子委員、根津美満子委員、小杉博司委員、原藤未奈委員、宮田守委員、中島正英委員、村田幹生委員
- (4) 欠席委員 小川真由美委員、デヴェロー斎恵委員、有野正樹委員
- (5) 事務局 教育部：堀川拓郎教育長、中田秀幸教育部長、田中洋平生涯学習担当参事
教育部庶務課：釜堀亜矢子課長、櫻井芳樹課長補佐、森谷秀信主査
- (6) 傍聴者 1名

2. 次第

- (1) 開会
- (2) 議事
 - 1) 新たな学校づくり・社会教育施設づくり推進計画 学校施設基本構想編（素案）
 - 2) 新たな学校づくり・社会教育施設づくり推進計画 学校諸機能整備計画編（素案）
 - 3) 新たな学校づくり・社会教育施設づくり推進計画 個別施設計画編（素案）
 - 4) 今後のスケジュール
 - 5) その他
- (3) 閉会

3. 配布資料

- 資料1 新たな学校づくり・社会教育施設づくり推進計画（素案）
- 資料2 今後のスケジュールについて（予定）
- （参考）かわら版（日野本町地区公共施設再編基本構想・基本計画）

4. 議事録

- 事務局 それではただいまより、令和6年度第8回の日野市新たな学校づくり・社会教育施設づくり検討委員会を始めさせていただきます。皆様方におかれましては、お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。私庶務課の釜堀が進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。それでは早速会の進行につきまして、委員長にお願ひいただければと思います。委員長どうぞよろしくお願ひいたします。
- 委員長 はい、それでは最終回になりましたけれども、議事をはじめさせていただきますと思います。議事次第は配付の通りでございますので、今回最後ですので遺憾なくご意見賜ればと思います。よろしくお願ひいたします。まずはじめに事務局にお尋ねしますが、委員の出席状況と傍聴者の有無についてご報告ください。
- 事務局 事務局でございます。本日の委員会は諸般の事情により小川委員、有野委員、デヴェロー委員が欠席となっております。したがいまして本日の出席委員は計13名となっております。また傍聴者につきましては1名申し出がございましたので、委員長にご報告するとともに、委員のご承認後、入室していただきたいと考えてございます。
- 委員長 はいありがとうございます。傍聴者については今まで通り、この会議は公開という規定がありますので、傍聴者を入室させたいと思いますが、よろしいでしょうか？
- 一同 (異議なし)
- 委員長 はい、意義はないと思います。それでは傍聴者の入室をお許しください。どうぞお願ひします。それではこの議事次第に従って進めていきますのでよろしくお願ひします。まずは議事の1、学校施設基本構想案についてです。素案について事務局よりご説明をお願ひします。
- 事務局 事務局でございます。資料1、推進計画をご覧ください。これまではスライド形式の資料や各計画単位でお示ししてまいりましたが、本日、推進計画素案でございますので、この1年と数カ月、いよいよ委員皆さまの声を総括いたしました1冊の推進計画をもちいてご説明をさせていただきます。はじめに、表紙並びに最終ページの裏表紙をご覧ください。このデザインは本年6月から7月において、都立日野台高校の生徒とのワークショップを行った際に、中学校モデルの模型をレゴブロックで構想いただいた際のデザインを、あらためてパース化して描いたものでございます。この検討委員会の趣旨として、あらゆる学校関係者の声を吸い上げ、空間をデザインすることが1つの目的であること、

表紙というのは計画書のまさにシンボルでありますので、あらためて日野台生のデザインをここで活用させていただいたものです。次に表紙の裏面、「はじめに」をご覧ください。内容につきましては、第7回検討委員会で簡略にご説明をいたしました。本日の説明は最下段から3行目上でございます。みんなが楽しく通いたくなる学校。これは日野一小的の児童が未来の学校描くコンセプトとしていたことを以前ご紹介しましたが、その右「先生、友達、教室などみんなの大好きがここにある」をここにあらためて文言を加えました。これは元々この後ご説明するコンセプト設定の際に、委員から「好き」というキーワードをご提案をいただきまして、あらためてワークショップの実施経過を振り返らせていただいたところ、日野一小的の皆さんの色々な「好き」という思いが強く、コンセプトを補完するものとしてここに加筆させていただきました。続きまして、少し先に進みまして10ページをご覧ください。推進計画の位置づけでございます。日野市の基本構想・基本計画に属します「日野地域未来ビジョン2030」を最上位計画として主に左側に教育関連に関する計画を、ソフトを中心として、また右側には公共施設に関する計画を、いわゆるハードを中心として、それぞれの相関図をまとめました。推進計画はそれぞれの上位計画からその流れを組むものとして位置づけられている計画となります。次ページをご覧ください。計画の構成です。これは以前からご覧いただいております構成イメージと大きく体系の変更はございませんが、これまでは、他市の事例にもとづく計画の呼び名を参考としておりましたが、ここで計画素案の体系が形できてきたことから、推進計画の内容にあわせて名称を改めたものです。少し進みまして16ページをご覧ください。日野市立学校の現状と課題でございます。ここからは現状と課題、並びに今後の方向性をペアとしてお示ししておりますが、やや分量が多いこともございますので、今後少々手直しをさせていただければと存じます。そしてその下、それぞれの現状課題などの抽出にあたり、その土台となっておりますのが、現場の声や検討委員会委員皆様のご意見を抜粋したものであり、ルーズリーフ形式にて簡略にまとめさせていただきました。少し進みまして21ページをご覧ください。社会に開かれた教育課程と社会教育施設との連携接続でございます。前回第7回の社会教育分野との関連においてもその現状と課題、方向性をあらためてお示しさせていただきました。その観点をあらためて追記したものでございます。進みまして28ページでございます。学校施設整備に向けたコンセプトです。第6回検討委員会以降、委員より多様なキーワードをこの間ご提案いただきました。ここではこれまでのご意見やお考えをもとに、4つのコンセプトに改めてまとめさせていただき、30ページ以降の整備の方向性のコンセプトといたしました。なお、同ページ下段、三角錐のカタチをした意見集約イメージは、これまでにいただいたあらゆる声を基盤として検討手法を工夫し、目指すべき姿を構築しました概念図となります。その次、29ページをご覧ください。推進計画策定に向けた取り組みの1つでありますワークショップにつき、その経過をコラムにてお示しさせていただきました。日野一小的のほか、日野三中、日野台高校などワークショップに関する取り組み事例を簡略お示しさせていただきました。続きまして30ページから33ページまでは先ほどのコンセプトに基づく整備の方向性となります。事務局からのご説明は以上となります。

委員長

どうもありがとうございました。資料が30何ページにわたっておりますが、いかがでしょうか？今回のこの文章は、7月の第6回目の委員会と10月の第7回目の委員会などでご意見をいただいて、その後10月以降は個別に教育委員

会の事務局の方に皆様からご質問やご意見・ご指摘をいただいたものを一応は全部ここに吸収しております。ただ事務局の言葉ですとちょっと文言をもう少し整理することが必要かもしれませんが、大体今まで皆様から頂戴したご意見は全てこの中に盛り込んだという段階にあると思います。さてこの1点目の学校整備基本構想について、ページで言いますと35ページまででしょうか、ご質問あるいはご意見等ございましたら、ぜひよろしくをお願いします。

副委員長

表紙についてご説明いただきまして、日野台高校でのワークショップの結果を使った表紙にされたということで、それは素晴らしいなと思いました。他方でこの表紙だけを見ますと、その経緯を知らない方にとっては、こんな学校になるのかなという第一印象として、そのままストレートに受け止められる可能性もありますので、その経緯の説明がどこかにあると良いのではないかと思います。もちろん52ページに行くと、そういうワークショップがあったんだということは書いてあるんですけども、むしろこちらのほうにある写真のように、何かみんなで考えながら、意見を出し合って、想いを確認し合って作っていったんだってということが、この表紙に出てくるとさらにいいのかなと。結果だけでなくそのプロセスの部分をさらにこの表紙に表現する余裕があれば、ぜひお願いしたいと思います。

委員長

貴重なご指摘ありがとうございます。確かにその通りで、事務局いろいろ工夫をお願いいたします。副委員長のご発言いただいて、さらにご発言を促すんですけど、2編目以降は具体的に学校の整備計画の内容について書いてあるんですが、この1編目は社会教育施設のあり方との関係もかなり書いていただいているわけですけども、その立場から何かコメントとか感想がありましたら副委員長お願いします。

副委員長

はい。やはり社会教育は地域を基盤に行われているものです。日野市のこの全域・全体でそういう学びの拠点が広がっていくことが最も大事なことだと思っています。そういう意味では、学校教育と社会教育、先ほどの本文の中では、社会に開かれた教育課程と社会教育の接続というような説明もありましたけれども、もっと広く学校教育と社会教育の連携であるとか融合であるとか、あるいはそれをもっと総合的に捉えて、人々が地域で学び続けられるような環境を作っていくことが今回の計画には込められています。この委員会は学校づくり・社会教育施設づくりという名称ですけども、その方向性を示すことができたと思えました。

委員長

ありがとうございます。貴重なご発言ありがとうございます。確かにこのレポートは学校の計画を今後どうしたらいいかっていうことも含めて、各生涯学習の観点から、社会教育と学校がどう連携したらいいかっていうことについても

触れていただいて、かつ副委員長にいろいろアドバイスをいただきましてありがとうございました。その関係で、社会教育分野につきましては、以前日野本町地区で公共施設の再編計画があると伺っていましたが、その進行状況などについて、委員から何かご発言をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

委員

発言の機会をありがとうございます。本日の会議でも参考資料としてかわら版第2号というものをお配りしていますので、こちらを見ながら少しだけご説明差し上げたいと思います。前回の会議でも、かわら版第1号を参考として配付させていただきました。それに続きます第2号というのがこちらになります。本年度でありますけど、私達の企画部では公共施設の老朽化対策の一環として、日野本町地区における公共施設の再編プロジェクトというものをスタートさせております。この対象施設には、今回の検討委員会でも関係があります、学校教育施設では日野第一小学校、また社会教育施設では中央公民館であったり日野図書館といったものが対象となっております。この検討状況を幅広くお知らせするためにこういったかわら版を定期的に発行してまいり所存でございます。現在でございますけど、こういった対象施設の機能分析などを進めながら、公共施設再編後のサービス提供のあり方などについて模索をし、公共施設の複合化・多機能化・共用化に向けた検討というものを行っております。こういった検討の中で、日野市における社会教育の一翼を担います中央公民館についての庁内での分析がですね、現状では正直申し上げて、少し不十分であるかなという認識を持ってございました。そういったことがございましたので、日頃から中央公民館をご利用されております市民の皆様方と、利用者として考える現状の課題だったり、将来の展望などについて、本音の意見交換を行いたく、私ども企画部の方で市民座談会というものをここでいまして、10月に計2回行いました。延べ50名のご参加をいただいたところでございます。会場については中央公民館で行いまして、実施方法については車座方式で、ワークショップスタイルでやったということでございます。この結果から得られたものでございますけど、まず社会教育を通じて利用者同士だったり、あとは公民館の職員と日常的に交流できる環境こそが、日野市の中央公民館の価値である。こういった考え方にまとめられました。一方で若者が興味や関心を持てるように、また若者と繋がれる場にしていく必要がある。こういった課題も共有されたところでございます。また、今回の私どもの公共施設再編事業を踏まえて、公民館活動に関する効果的な情報発信の重要性であったりとか、誰もが自由に利用できるこういう共用スペース生み出すことによって活動の場がさらに広がり、多くの交流が生まれ、その交流をきっかけに、社会教育へいざなう可能性が見出せるといった方向性も導かれたところでございます。市民座談会では大変和やかな雰囲気の中で、利用者の皆様方の本音の声を伺うことができたと考えております。また利用者の皆様方が今まで培ってきた日野

市の公民館の文化や雰囲気といったものをとても大事にされていることに私自身、深い感銘を受けたところでもございます。これらの結果につきましては今後の日野本町地区における再編検討にしっかりと結びつけてまいりたいと考えております。この詳細につきましては日野市のホームページ上で順次公開してまいりますので必要に応じてご覧になっていただければと思います。雑駁でありますけど以上でございます。

委員長

ありがとうございました。また今後の取り組みや進展を楽しみにしておりますのでよろしくお願いいたします。その他1点目、35ページまでで何か他にご指摘いただくこと、ご意見等ございますでしょうか？この1点目で、学校施設のあり方だけではなくて繰り返しになりますけども、生涯学習全体を考えていく中で社会教育と学校教育の施設の相互のあり方などについて、総合的に触れていただいたのは、他の市でもいろんな学校施設の再整備構想を書いています。ここまで全体像を社会教育と学校教育を繋げて考察しているレポートって割と少ないと思うので、相当ユニークな素晴らしい成果だというふうに私自身も思っております。ありがとうございました。それでは後ほどまた振り返る時間がありましたらご意見を承るとして2編目の方に参ります。学校諸機能整備計画です。それでは事務局よりご説明よろしくお願いたします。

事務局

事務局でございます。資料1推進計画のうち、続きとなります学校諸機能整備計画をお開きください。その次ページ、黒丸2つめの注釈でございます。新たな学校づくり・社会教育施設づくりのうち、社会教育施設（図書館・公民館）については、すでに令和5年度に個別施設計画を策定しており、今後の施設整備の方向性が示されております。また、この整備計画の随所にお示ししておりますイラストやパースなどは、その理念や考え方を補完する表現であり、これから整備する学習空間を本計画により固定化するものではないことを前提条件として、あらかじめ申し述べさせていただくものです。進みまして、40ページでございます。整備計画の前提条件です。このページは本市におけます「学級編成基準」や「学級数など」を補足したものとなります。これは整備計画を策定するにあたっての標準的な規模の前提条件として、ここにあらためて付したものであり、本市の場合、地域により、学級数などにより大きくばらつきが生じていることから、適正レンジの一事例としてお示したものです。（2）の2段落目「ただし」より始まる文言のご説明となりますが、適正規模、適正配置等検討委員会は教育委員会の付属機関の機能を有し、諮問や答申に基づく意思決定となることから、本検討委員会による計画の位置づけについては、権限を越えない範囲で内容の提案をさせていただくものです。41・42ページをご覧ください。ダイアグラムです。これまでの検討過程から、それぞれ地域開放の動線上に地域活動を主体とした諸室の位置づけをあらたに加筆いたしました。45ページをお開きください。ここから学校施設の整備の具体が求めら

れる事項のテキスト記載に加えて、その特長をイメージ図で補完したものでございます。52ページをお開きください。小中学校の共通事項の整備としての「ラーニングセンター」でございます。次ページ、日野三中の図書委員と行ったワークショップをもとに、当初、機能構成を描きましたが、さらにより分かりやすく表現するために、本ページにおきまして、日野三中生が作成した平面イメージからラーニングセンターの立体空間を予想図として作成し、お示したものです。続きまして63・64ページでございます。社会教育施設との連携です。この考え方につきましては、第7回検討委員会においてお示しいたしまして、求められる空間イメージを、あらためて平面により表現いたしました。空間はあくまでフレキシブルに、また屋外・屋内の一体的利用と拡張性などに特長がございます。66・67ページでございます。既存校舎の現代化に向けてどのような対策が図れるか、敷地面積を基準として建物を検討した場合、その制約をうけるにあたってはどのような整備の工夫や優先順位付けが必要となるか、あらためて整理させていただいたものです。次の個別施設計画を飛ばしまして、119ページの次でございます。ここからは資料編として、設置要綱や委員名簿、これまでの検討委員会議事につき、あらためてお示したものです。事務局からの説明は以上です。

委員長

どうもありがとうございました。学校諸機能整備計画をご説明いただきました。これも6回目7回目の委員会における皆様のご意見をもとにしてさらにその後事務局にいろいろご意見を賜ったことを、この時点で全部反映させている結果とは聞いております。さて、以上についていかがでしょうか？何かご質問、あるいはご意見、あるいはご要望等がありましたら承りたいと思います。これからの小学校や中学校の施設計画のあり方について将来像を皆様の意見をいただいて、なるべくビジュアルな形でまとめようとして、事務局もコンサルもいろいろ努力してございました。かなり出来上がりだというふうに思いますが、いかがでしょうか。これは新しく学校を改築新築しなきゃいけないときもそうですけれども、あの既存のストックをどのように現代化していくか、新しい学習形態にどう対応していくかも含めて、例えばバリアフリーあるいは省エネルギーですとかZEB化などを含めていろいろ丹念に書いていただいている。ご質問ご意見いかがでしょうか。

委員

ユニバーサルデザインとバリアフリーへの対応ということでかなりページ数の記載がちゃんとされているなという印象がすごいあるんですけども、スケジュールに関しては最後の個別施設計画の方に基本的には出ているとは思いますが、結構長いスパンの期間の表記になっていてですね、バリアフリーの対応に15年とか40年、本当にそんなにかけるつもりなのかなというのをちょっと率直な疑問として見て感じました。もちろん文面の中で個別に必要なものはやっていく、検討するというふうには書いてあるんですけども、ここはま

た別のバリアフリーの推進協議会の方ではバリアフリー化が必要な場所というのを抽出して、概ね多分5、6年以内に改善していこうというような短いスパンで計画を立てられていると思います。それからするとちょっと学校の計画の方は、長いんじゃないかなというふうに率直に思ったので、いろいろと検討しないといけないとか予算的なものがあるとか、重々承知しているんですけども、バリアフリー協議会の方で私も参加したんですけども、学校のバリアフリー化は非常に遅れているということで、何人かの委員で学校ももっと対象にするべきだというふうな意見をかなり強く、言ったんですけども、教育委員会の方ではこちらはこちらで計画を立てているので、ちょっと言い方悪いけど口を出さないで欲しいじゃないですけども、ちょっと反応芳しくなかったというような話を聞きましてバリアフリー化に関しては、考え方はいろいろあると思うんですね。災害時の避難所としての計画のために必要なバリアフリーと、あとはインクルーシブ教育のために障害のある子もない子も一緒に学んでいく学校のために必要なバリアフリーの設備もあって、ちょっとそれぞれ必要な理由とかそのために必要な設備ですとか費用もだいぶ違ってくると思うので、何のためにバリアフリー化するかっていう目的のために、ちょっと分けて考えた上で、例えば災害に関しての必要なバリアフリー化に関してまちづくりの部とかそういうユニバーサル推進協議会の方と連携をして、力を合わせてやっていく。教育に関してはまた別のところもたくさんその教育の目的のために必要な施設をどういうふうにするのかそのために、何が必要かどういうところは節約できるのか、いろんなアイデアを集めるとかそういった横の繋がりとの協議を紙面上だけじゃなくて、実際に進めていただきたいと思うのと、それに関しては、15年と言わずにもう1年でも2年でも早くやっていただきたいなど。今、日野市に生まれた障害のあるお子さんを持ったお母さんやお父さんが、この子が小学校に行くときには、この近くの学校に通えるんだって思ってもらえるようなペースでやってもらいたいっていうのはすごく思いました。

委員長

大変貴重なご意見、全くその通りだと思います。ありがとうございます。重いご発言ですけども、確かに25ある小中学校を順番に計画的に長寿命化改修、バリアフリー改修していくとは言いながら、そうすると後回しになる学校って、10年先、20年先になるっていう課題はもちろんありますね。どこかに確か書いてくださったと思いますが、それを長期計画とは別に必要な事項で手を打つべきことは順次作っていく。そのことに加えて今のご発言は学校だけに限らず、様々な市内の連携機関と連携しながら、バリアフリー・ユニバーサルデザインということあるいはインクルーシブ教育というのは非常に大事な課題なので、できる限り手厚い手段を講じてほしいというご意見だと思いますが、私もそれについては全く同じ意見でございますので、市もそのことはしっかり受け止めてくださっていると思いますけども、なお一層これから努力をしてください。事務局この件について何かご発言ございますか。

事務局 個別施設計画でそのあたりのところは記載していますので、また後ほど説明させていただきます。

委員長 3編目の個別計画のところ、その点についても触れてください。しかしながら、もう一回繰り返しますけど25の小・中学校を順番に順番にとは言いながら、手を打つことが最後になってしまう学校のバリアフリーって一体どうなるかとか、緊急時はどうなのかとか、その他校区に住まわれている障害のある児童生徒さんの行動がどうなるかっていうことは、極めて重い課題ですので、教育委員会としてもそのことは大変重く、しっかり受け止めてくださっているとしますけれども、改めてそういうご発言いただくと大変結構なことだと思いますのでありがとうございます。深く感謝します。その他2編についていかがでしょうか？

委員 よろしいですか？声がなかなか出なくて申し訳ありません。61ページなんですけど、プールについて書かれているかと思います。プールは今後、施設としてはお作りになるんでしょうか？というのは例えば平山小学校の場合、来年は室内プールに仕様を移行しますという通達が参りました。既に室内プールに移行されている学校もあります。というところで、作られるかもしくは室内プールになるのか。そのところはちょっとここからは読み取りが難しかったので、確認をさせていただきたいと思います。

事務局 プール施設の方向性については現時点ではどうしていこうというのが固まっておきませんのでこの記載にとどまっております。ただ、日野市ですね令和2年度にですねプール改革の事業というところの方針を立ててですね、民間プール化を小学校の方はしています。そこは施設の老朽化ややはり効率化というところで行っているんですけども、今後もそういったところだったり、どうやって更新していくのか、暑さ対策もですね日よけとかを拡張をしなければいけないという課題も持っていますのでそこら辺はですね、またこれの計画を受けて個別計画というか事業計画のような形で更新していくようなことを考えておりますが、現時点ではまだ方針が定まっております。

委員長 課題ですね。ありがとうございます。その他よろしいですか。

副委員長 細かい点で3つございます。一つ目は41ページのところで、ちょうど考え方や理念の部分なんですけれども、やはり小学校ではラーニングセンターやオープンスペース、そして中学校では多機能スペースと廊下の空間拡張が、子供たちにとってもこの計画の大きな目玉になると思っています。そういう意味では、多様な学習活動、それからゆとりある生活環境の目的の部分の部分を明確にして

いただいたのは非常によかったなと思います。そこで、ここは悩ましいところなのですけれども、多様な学習活動、ゆとりある生活環境というのが非常に大事な概念ではありながら、他方で曖昧かとも思いまして、ただ学校施設をこれから何十年と使っていくので、あえてここでどういう学習活動だとかあるいは授業づくりや学習集団の展開の仕方とかをそこまで具体的に書き込まない方がいいのかなとも思いました。これはこの現状の形がいいんじゃないかなというのが私としては一つの意見です。

それから二つ目は、これはこの委員会でもかなり議論したと思うんですけれども、職員室についてしっかり書き込んでいただいたことがすごく良かったと思います。56 ページから 57 ページにかけてです。特にここで議論になっているのは、コミュニケーションスペースだったと思いますけれども、57 ページのひらがなの「お」のところに書いてあるところですが、その目的が教員等の円滑な情報共有や一時的な休息とあります。しかし、私達の議論の中では「チームとしての学校」ということで、子供たちの問題を教員が1人で抱え込むのではなくて、インフォーマルな情報共有も含めて、教職員や学校に関わる人材がお互いに課題を共有して、みんなで解決していくんだっていうことだったと思います。それは時代が変わっても、これからますます大事になる学校組織のあり方だと思いましたので、もし表現できるのであれば、そういった「チームワーク」というような考え方とかですね、「チームとしての学校」ってことなのかもしれないですが、そういった学校組織を「コミュニケーションのあふれる場」にしていく、「働きやすい場」にしていくっていうようなこともさらに加えていただけるといいと思いました。

最後3点目は、59 ページの④にあるトイレについてです。これについてもこの委員会でもかなり議論したと思います。明るくて使いやすいということ、それから衛生については書いていただいたんですけど、議論になっていたのは、やはり安全であるとか、安心して使えるということがありました。ぜひそのことは、計画の魂として書き込んでいただけるといいんじゃないかなと思いました。

委員長

どうもありがとうございました。事務局発言があればどうぞ。

事務局

まず一点目の件ですが、この検討委員会が始まった際に1回目から7回目はフレキシブルという言葉が多く出てまいりました。これは急速に変化する時代の中において、この学習空間を固定しないというのが一つの考え方が出てきた言葉だと思います。特にこれまで特別教室においてよくその言葉が出てまいりました。先ほど私のご説明にあった通り、学校諸機能整備計画の中表紙の次のページに、学習空間をこの計画で固定しないというのがそのフレキシブルの考え方の1つであって、子どもたちにとって、それから教員にとってより使いやすい空間を作っていきたいというのがその趣旨でございます。そういう点からし

ますと、先ほどのダイアグラムのところに書いてあるものについても少しその表現にゆとりを持たせたというのが推進計画の趣旨でございます。それから2点目3点目の職員室それからトイレについてまさにご指摘の通りでございます。まだまだ十分にこの推進計画が委員皆様の声を反映できておらず未完成的な状態であるかなと感じております。委員ご発言の趣旨とおり、こういうところを少しトーンを上げて強めに書いた方がいいんじゃないかというご意見があれば、ぜひご意見をお寄せいただきたいと思います。ご指摘ありがとうございます。

委員長

ありがとうございました。チームとしての学校、教職員のチームというのは最近、確かにそういうキーワードはいろんなところで使われているようですので、これはぜひ参考にさせていただいて、それからトイレの安心安全っていうのも大事なキーワードですので、取り入れていきたいと思えます。今日もしお時間がなかったり少し全部細かく見ていただく時間がなくて、後ほどそういうことに気がつかれましたら、まだこれをまとめるにはもう一段階ございますので、事務局にご意見ご質問ご要望を連絡くださればよろしいかと思えます。よろしくをお願いします。その他よろしいですか。

委員

夢が丘小とかです。平山小など、先進的な学校の例が載っていました。平山小の良い面、それから夢が丘小の良い面、あと中学校も載っていたと思うのですが、例えば整備の Spann が長いということですが、対応できるところは早くやっつけていこうと、インクルーシブ教育じゃないかって話がありました。良いところはどんどん取り入れていく、そのような表現があったのかなと思えます。それからもう一つは、日野らしさを盛り込んでいく、日野らしさを表現する。そのような表記がどこかにあったんですが、特にこの提案では日野らしさはどこなのか先ほどの表紙についてもですね、何かあった方がいいのかなと思ったんですが、また今後こういうふうに出していくんだというようなことありましたら教えてほしいと思えます。

委員長

はい、どうもありがとうございます。

委員

参加している立場として気になったところなんですけれども、65 ページの放課後の活動のところ。まず①の学童クラブのところ。まず文章が途中で終わってしまっている。これ多分何かこの後も続くんだなというふうには思っています。65 ページの上のパラグラフの一番上の(1)の部分、学童クラブのところが多分この後に言葉がまだ続くのかなと。それから②の放課後子供教室なんですけれども、これひのちが始まって17年、18年目に入りますが、元々の最初の出だしの部分で、施設というものは小学校の空き教室を使ってというコンセプトで始まった事業なんです。まだずっとそのままという状

態は変わっておらず、結局ここでも多目的スペースの活用とか、普通教室、実施スペースの確保を図りますということで、専属の空間というのはやはり日野市としては、考えてないっていうのが読み解けるんですか、その通りでよろしいでしょうか。誰に聞けばいいんでしょうか。

委員 現状としては小学校の余裕教室活用みたいなところからスタートしたのかなというふうに思っております。その中でちょっと一方で今現状はお子さんは長い目で見ると少なくなってきたはいるんですけど、学校の教室の使い方って余裕教室っていう話ではなくなっていて、少人数教室だとかいろんな使い方が増えていて、昼間の学校教育での使い方とその後の放課後の子供の時間の使い方をどう考えているのかなというのはちょっと課題なのかなと考えております。一方で、この計画の全体のコンセプトだと思うんですが、社会教育の部分も含めて全てを足し算していくっていうことがなかなか難しいというふうに考えています。そこの解決策をちょっと現実的にどう図っていくかなってところではなるべくその共用化、タイムシェアできるようなことも考えながら、その代替り場所としてはしっかり確保していきたいなというふうにちょっとそんな感じになりました。

委員長 ありがとうございます。ということも含めて、どう書くかはもう少し工夫いただいた方がいいと思います。ありがとうございます。はいどうぞ。

副委員長 今の点に関連して、その活動の実施スペースの確保をどういう方針で図っていくのかということ、やはり書いておいていただきたくて発言します。やはり放課後子ども教室というのは、子供たちが学校の課業から解放されて、重たいランドセルを置いて、自由に過ごせる学びと体験の時間であり空間であるということです。そのための空間を最大限確保していくという思いがきちんと書いていないと、いろいろな事情で使えない理由ばかりが増えて、非常に狭い空間で活動が制限されることになってしまう。ですので、ぜひそういう何らかの確保を図っていくというコンセプトを書いておく。本当は専用の部屋が用意できれば一番いいんでしょうけれども、放課後の時間ということもあるので、そこはある施設を活用しながらやっていくことも大事なことです。ぜひそういう方針、コンセプト、思いを書いておくことができるといいのではないかなというふうに思いました。

委員長 ありがとうございます。記述については工夫しましょう。それでは時間の関係もごきますので、また後で時間がありましたら取るということにしまして、3つ目の議事に入らせていただきます。個別施設計画でございます。それでは事務局より素案をご説明をお願いいたします。

まず目次をご覧くださいと思います。表紙から4枚おめくりください。3個別施設計画になります。前回でパワーポイント一部説明をさせていただいて、まず構成についてご説明したいと思います。1章から8章ある中で、まずは目的や位置づけ、計画期間40年とっておりますけれども、そういったところを1章。2章では他の計画等についてとなっております。3章はですね、学校施設の現状、4章は建物の調査ということで、今どうなっているのかという客観情報を集めた情報となっております。ちょっとこの4章に関わるところで、今計画書の下に1枚ペラを付けさせていただきましたのでそちらをご覧くださいと思います。建物コンクリート調査および劣化状況調査一覧というものでございます。4章のところの集約した情報となっております、学校施設小学校17校中学校8校の25校の劣化の程度を表したものでございます。調査がですね、基本的にコンクリートの強度をですね測ったものと、あと外から見た例えば屋上がどうなっているとかですね、設備がどうなっているかという外観の目視で調査をしまして、それを一覧にしております。ここでですねぱっと見てわかるというのはですね、ピンクや紫色しているコンクリートの欄がですねコンクリートが少し弱い状況になっているというもので、改築等の必要性がある建物となっていて、逆に緑色のところは強い建物となっております。平山小だったり一中のように新しく建てたところは、強度が比較的高い建物となっているような見方をさせていただければと思います。また劣化状況の方は茶色の色合いを示してまして、濃い茶色のところのDと書いてあるところがですね、なるべく早く改善した方がいいというものでして、この辺のAからDの評価であるんですけどもDが悪い方です。健全度が100点満点でそれらを点数化したもので、一中はやはり劣化状況も悪いと、逆に先ほど申し上げた平山小や一中は比較的良いというような一覧になっています。目次の方にお戻りください。4章でちょっとこれ今冊子に入れることができなかったので、このページも101ページというところに入れていきたいと思っています。ここまでで4章までで客観情報を整理して、5章から8章でどうやって整備をしていくのかというのをまとめてございます。ここからは本編をご覧くださいながら説明したいと思いますので、103ページにお進みください。まず5章がですね整備の基本方針ということで、基本的な考え方をまとめています。まず103、104ページに関しては、課題と対応方針を5つの視点で書いています。1つ目がですね事後対応でしているものをできるだけ計画的に壊れる前に、予防保全でやっていこうということ。2つ目は予算がなかなか厳しい中でちゃんと確保して実現していきましょうということ。3つ目は先ほど説明しました基本構想整備計画をきちんと実現していくという、要するに絵に描いた餅ではなく実現していこうということ。4番目が、先ほど委員からもご説明いただいたところで、今回後ほどご説明しますけれども、整備計画も大きな視点に立ってございしますが、個別的にですね、先ほどバリアフリー化含めて、例えばLEDを早くやっていこうとかそういう早急に全校的にやるようなものを個別改修ということ

で位置づけています。個別改修も着実に進めていこうということを書いております。次のページ、おめくりいただいて5番目がですね、本計画公共施設総合管理計画が上位計画でありますので、そこでの連携の必要性についてうたっております。基本的には学校施設はですね、公共施設の中でも拠点となり得るような規模や意味合いがございますので、そういった基本的な性格を踏まえつつですね、これから申し上げますような改修や大規模改修をするときには、きちんと周辺の公共施設の再編と動向を踏まえてですね、連携していきましょうということをお話しております。次のページ105ページ106ページにわたってはですね、前回概略でご説明しましたけれども、また専門的というか技術的な内容になっていまして、建物これまで80年という使用期間を設定していたんですけれども、伸ばせるものは伸ばしていきましょうということをお話しております。106ページには、30ニュートン、コンクリート強度、先ほどの緑で塗った部分については100年持たせましょうというのは、今回新たに設定いたしました。またそれに基づいて107ページちょっと絵が荒いんですけれども、上の80年タイプというのは従前だけだったんですけれどもこれに加えて、100年タイプというのを合わせてやっていこうということで考えております。次のページ108ページをご覧ください。整備内容、ちょっと抽象的な話ではあるんですけれども、今のようですね考え方をどうやって次以降の整備方針に落とし込んでいくんだということを書いていまして、基本ですね今までここに書いてあることの趣旨としましては、今まで全学校の中には複数棟あるんですけれども、それをまとめて改築するか、まとめて長寿命化するという二択がほとんどでした。それではなくて一部を改修しつつ、一部を長寿命化するような手法を入れていこうというのが一番最下段なんですけれども、書いているところでございます。これら5章のですね基本的な方針を踏まえて、6章はですね各学校に落とし込んでいく内容となっております。6章109ページがですねまずは整備、落とし込んでいくにあたってどういう区分にするかというのを書いております。前段全部改築と、一部改築というのが今回取り入れた新しい要素で、なかなか他市でもあまり見受けられない内容ではあるんですけれども、これによって後で申し上げますけれども、先ほど基本構想整備計画に挙げた実現化を早くにやっていこうということを考えております。下段はそれをどうやって各学校でふり分けをするのかという基本的な考え方として、次のページ、110ページ、111ページをご覧ください。111ページがまとめなんですけれども、この計画40年という長期の中で、おおむね2回整備のタイミングがあると思っています。1回目が前期整備というふうに表15で書いておまして、その後概ね3、40年後のあたりかと思っています。前期で全部一緒であればまず全部改築をして、後期では改築したものを長寿命にしようというような見方となっております。整備時期、短期中期長期とありますけれども、枝にも注釈しております。15年、15年、10年というくりでやっておりまして、基本的に15年で今のところ16校ですね対象としております。次のページをご覧ください。

ください。個別改修の整備、後ほどまだあるんですけども、先ほど委員からご指摘あったところ我々もとても大事だと思っています。15年で先ほど言った25校のうち16校整備する。残りの9校は、あとそれ以外遅くなるからどうなるんだって、ちょっと遅いでしょっていうところがありますので、そういったところに関しましては、全部はやはり前倒しができませんので、一部、先ほどのバリアフリー化や他の課題もあります。プールの話もそうですけれども、そういう個別のことに関しましては、ここでは書ききれない部分がありますので、基本的にはここで後ほど述べる事業費の枠内をですね、先にやるような形の考えで整理してございます。そういった考えのもと、ただ計画がないとできませんので、例えば全校をバリアフリー化するときには、先ほど委員がおっしゃったように、どういう目的でやるのかというところをちゃんと明確にして、資金計画を整理してやっていくような体制が基本かなと思っています。112ページの下段にその辺りを書いてございます。このような整備方針に基づいて、113ページ以降がですね、お金を弾いたところでございます。113ページはですね、事業費の単純に言うと、1平米当たりの単価×面積で出したのを足していきますよというふうに書いてありまして、下段の表はその1平米当たりの単価の考え方を書いてあります。次ページ114、115に関しましては、主旨だけを申し上げると、後で最終でまとめたところに至るまでのこうやってお金を落としてきましたというところを書いてあるところでございます。116ページは我々側の話なんですけれどもお金、かなり厳しいですのでちゃんと国の補助金等ですね、貪欲に取っていきこうというようなところ、そのために必要なことを書き添えたところです。まとめとして117ページが40年間でかかる事業費を示しております。上の表はですね、各年ごとの左側の非常に桁数がわかりづらくて恐縮なんですけれども、10億円単位で書いてありまして、見てわかるように年間かかっても40億円程度という形で平準化したプランとはなっております。40年間で緑枠で書いてあります約1084億円かかる形で、1期、ここで言うと先ほどの短期ですね、短期で言えば406億円かかるという試算をしてございます。先ほど書いた汗かいて削ったところですね、一応前回計画よりは安く積算できたところでございます。最後、次のページ118ページをご覧ください。さらにですねここでは、どの学校をどうするというのを書いてありまして、短期の15年間でどの学校をどういう整備をしていくのか、右端におおむねの事業費を書いてございます。ここでまた最後締めとしましては、今後の課題です。先ほど來說明しております個別改修のところと合わせて、一番目の各校整備の早期実現のところは、委員からもありました通り、例えばという表記はさせていただいていますが、バリアフリー化の整備の一部をですね、個別改修化してやるということも必要性は感じておりますので、今後の課題として書かせていただきました。また、PDCAはもちろんのこと、長寿命化をするということですね、まだコンクリート強度とかもわかっていない建物もございまして、そういったところの詳細調査も今後して、より延

命化を図っていこうというのが4番目に書いてあります。また重要などころではあるんですけど、5番目、PFI やリースなどですね。今回計画は基本的に設計をして公共工事をするという手法での積算となっておりますけれども、それより安く、より内容がですねよくなる、そういう整備手法もございますので、そういった内容は採用を検討していきましょうということを書いてございます。雑駁な説明となりますが、以上個別施設計画の内容となります。

委員長 ありがとうございます。膨大な予算と膨大なエネルギーと、長い期間がかかる。しかし、これは覚悟を決めて日野市の子供たちのための学校環境をしっかり整えていくっていう、ある意味これ決意表明だと思えますけれども。しかし、膨大なタスクだなんていうことはひしひしと感じられました。ご質問ご意見いかがでしょうか？

副委員長 117ページのところでは、毎年どのくらいのお金がかかって、期間全体で1084億円という試算をいただいています。今、これは学校に限らず、建設費の高騰が起きています。他の自治体でも、学校づくりの方針を決めたのち、実際にそれを進めようとしたら想定よりお金が多くかかってしまうケースがあります。そういう意味では、この113ページの7章の1の(2)で、令和7年度建物予算単価をもとに40年分の試算をしているんですけども、なかなか今後の見通しは難しいと思うんですけども、物価や建設費が近年上がってきている中で、実際にやはりこういうふうに40年を均して作っていく方がいいのか、あるいは少し前倒すと安くなったりしないのかとか、そういう試算はなかなかやっぱり難しいのでしょうか。私も建設費の専門ではないので、そのあたり試算の仕方について教えてください。

委員長 これは正直すごい難しいです。学校に限らず、公共施設、病院も、国立劇場も建設のめどが立たないっていうニュースやっていましたけど。この3年くらいの高騰の仕方はちょっと異常ですよ。これはしかしちょっと見通しがつかないと思いますが、事務局からコメントはありますか。

事務局 もうおっしゃっていただいた通りで、一応この積算のところでもですね物価スライドに応じた掛け率みたいなものもあるんですけども、今回もそこがそれが正しいのか、この長期の中でどういう掛け率かっていうのはわかりません。まずは現時点でわかる精査した数字というのをですね、うちの財政部局が理解得られるところも含めて示したという数字です。

委員長 ということで、これは推計が難しいけども、現時点で得られる情報を精査した上での試算だということをちょっと小さなコメントで書いておいた方がいいかもしれないですね。事務局はそのところの表現を工夫してください。ご指摘あり

がございました。その他いかがでしょうか。これは大変な状況であるけれども日野市にとって非常に大事なプロジェクトですし、実は日本全国がこの問題を抱えて、学校施設の長寿命化、ZEB化、ユニバーサルデザイン化というのは、いわゆる文科省レベルでも大きな問題になっていて、かつ今委員が話したように、予算大丈夫なのかという。しかし、歯を食いしばって前進するようにしていかないといけないと思いますけどいかがでしょうか？それでは次のテーマにとりあえず移らせていただいて、皆さんから後ほど一言ずつ全員にご発言をいただきますが、その時にもまた何かコメントございましたらお願いいたします。今後のスケジュールについてでございます。事務局から説明よろしく申し上げます。

事務局

事務局でございます。資料2をお手元にご用意をお願いいたします。こちら令和6年度の振り返りも兼ねまして、今後の予定についてご説明をさせていただきます。まずこの表の最上段、委員会、ワーキンググループにつきましてはこれまでのご説明の通り、令和6年度第5回から始まりまして、一番右側現在第8回の赤色の部分となりますけれども4回の実施、それからワーキンググループにつきましては4月の第7回から追加回を含めまして第14回ということで実施してまいりました。フィールドワークにつきましては、これまで30近くのアクションを起こしてきた次第でございます。その他合意形成といたしましては情報発信という観点で、市民の皆様にはわかりやすく迅速に議論のポイントをお知らせするための手法として各種媒体を使ってまいりました。今回第8回目の検討委員会が終わりましたら、委員からのご指摘による修正を反映させながら計画をまとめまして、12月に素案という形でまとめさせていただきたいと考えてございます。そののち、この素案につきましては1月の教育委員会で協議をさせていただき、次のステップとしてパブリックコメントにかけていくという流れとなります。また、皆様の任期につきましては教育委員会に報告がなされたところまでということでございますので、年明けの1月前後とお考えいただければと思います。それからパブリックコメントを終えまして、いよいよ3月末4月になりますと、この計画は令和10年度に予定されております日野第一小学校の基本構想の一つの土台となってくるものとなってまいります。ここで1点訂正でございます。下段左下の(1)の推進計画三つの構成要素とございますけれども、こちら旧名称で載せておりますが、先ほど私が申し上げた新しい名称で、修正をお願いできればと思います。また一番右下の(3)の推進計画の素案につきましては、三つの計画を対象にパブリックコメントをいたしまして、その他この検討委員会のご意見やフィールドワークで事務局が得ました学校現場のご意見などにつきましては、別途行政資料の報告書としてまとめさせていただく予定でございます。主なスケジュールについては以上です。

委員長 ありがとうございます。ただいまご説明いただきました今後のスケジュールについて何かご質問等ございますでしょうか。今ご説明あったようにまだ最終にまとめるまでがお時間ございますので、今日いただいたご意見はもちろん、今後またちょっとお気づきの点がありましたら、事務局に忌憚なくご連絡いただいて、どう修正するかは大変恐縮ですけれども委員長と事務局にご提示いただければと思いますが、なおまだご意見を賜りたいと思いますので今後ともどうぞよろしく願いいたします。いかがでしょうか？このスケジュールは最終的にはそういう冊子にまとまるのは4月ぐらいっていう想定ですかね。

事務局 はい事務局でございます。あくまで素案ということで、表紙にも肩書させていただいておりますけど、いわゆる確定版につきましては市民の皆様のパブリックコメントののちになりますので、日付上は令和7年4月から確定版として公表させていただきます。

委員長 ありがとうございます。それでは議事の4番目はこれで終了したということにさせていただきます。円滑な議事進行にご協力賜りましてありがとうございます。それでは最後の議事のその他ですが、事務局からこの議事についてはどうということかちょっとご説明いただけますか。

事務局 はい、事務局でございます。これまでの議事につきましては皆様のご意見を集約して、今の推進計画素案として冊子形式に反映させていただき、本日についても修正点についていろいろご意見をいただきました。議事、その他につきましては、1年数ヶ月皆様にいろいろとご議論いただきました。まだご意見いただきたい追加部分もありますし、一方で、ここで第8回の検討委員会が終了となりますので、ぜひ事務局からの要望としまして、皆様より今回の検討委員会のご感想などを一言ずついただければと思ひまして、その他についてご用意させていただきました。委員長ご推薦のもと一言ずついただければと思ひます。以上です。

委員長 はい、ありがとうございます。あと40分強ありますので、最後の機会ですので皆様から一言ずつお言葉を頂戴したいと思います。学識経験の2人は最後までお願いいたします。まず行政委員の中から口火を切っていただいて、今までのご感想ですとか、あるいは決意表明という結構ですけどよろしく願いいたします。

委員 それでは私から感想を述べさせていただきます。総務部で建物を作る側の人間として参加させていただきました。1年3ヶ月ほどですかね。この場に出させていいただきまして、委員長や各委員の方からの率直な意見をいただいて、いろいろ胸に刺さるものもいろいろございまして、深く刻んでいるところでござい

ます。いろんな意見いただきましてありがとうございます。今後につきましては当然これが出来上がった後、それを形になしていくという中で、私の部署については、少なからず多からずというか、どちらにしても関わってくる部署でございます。先ほどの副委員長からのお話もあったように、昨今ではかなり不調だ、仕事が滞る、半導体がなくて、エレベーターの会社が1年先送り。高圧ケーブルが入らなくてケーブルの引き直しが1年先送りだというものも発生しており、お金だけではなく、物・人っていうのもなかなか計画通り進まない現状ですので、先ほどの個別計画など、形が一つできることで、計画・予定から遅れているということもそこで見えてきますので、いろいろな意味で目標を持って、いろんな形で関わらせていただければと思います。1年3か月ですか、長い間ありがとうございました。

委員長

それでは委員お願いします。

委員

私、公共施設総合管理担当というのが仕事でして、今回の学校施設の建築物もそうなんですけど、他にもいろんなこの本庁舎を含めていっぱいありまして、あと行政が抱えている公共施設ということで、道路とか橋梁とか下水道といったインフラ施設もあるということで、こういった市が今管理しています公共施設全般について、今この学校施設と同じような個別施設計画作りというのを同時並行で進めているところです。学校については今回何十年でこれだけかかるという話があったようなものを全ての施設分類において今算出するような作業をやっています。それをもう1回市全体で突き合わせて、果たして年間いくらかかるのか。それがこれからの財政事情の中でそれがどれだけ支出できるのか。そういった検討もまたこの後、私の仕事の中でやってまいりますので、そこでもしかしたらまた少し年次計画みたいなものも当然微修正はかかるかなと思っていますけど、間違いなく先ほど事務局からご説明あった通り、公共施設の中でもやはり学校施設というのは地域の拠点であって、防災上からも非常に重要であってということで、間違いなくこれを拠点にしていく。最重要な公共施設だというのは認識してまいりたいと思っています。ちょっとそれとまた違った視点で感想一言述べさせてください。当然私も立場上様々な会議体に関わってまいりましたがこの検討委員会につきましては正直、この質の高さというものに非常に驚きを感じたところでございます。それをなぜかということを私なりに考えたところでありますけど、まず非常に議論がとても建設的だということがあるかと思えます。委員の皆様方の意見はそれぞれの現場の実態をですね、リアルに捉えておりまして、非常に的確であったと改めて感じております。次に委員の皆様方の参加意識が非常に高いということにも、驚いているところでございます。間違いなく委員の皆様方大変お忙しい中にも関わらず、毎回毎回事前に資料等よく読み込んできていらっしゃるのかなということは、この会議等のご発言等の中で間違いなく感じております。最後でございますけ

ど、やはり何を言ってもやはり委員長の知識と見識が見事なまでに、質の高い議論に繋がっているのかなということを感じた次第でございます。これだけ幅広い検討内容にも関わらず、限られたこの時間軸の中で、多様な意見が出る中で、我々が納得できる方向性をご示唆いただくということはこれ大変難しいことでありまして、それが本当に素晴らしいマネジメントの中でこの会議が運営されてきたのかなというふうに感じております。私もこの検討委員会に参加させていただいてそういったものを多くの勉強をさせていただいたところでございます。この検討委員会で生み出された推進計画案につきましては今後の日野市の公共施設マネジメントにしっかりと結び付けていきたいということで、私の所見ということで最後締めたいと思います。ありがとうございました。

委員長

いや、ありがとうございました。身に余るお言葉をいただいて。最後の私に関するコメント以外で、この委員会の委員の皆さんのレベルの高さ、積極性とか、見識の高さっていうのは本当に私も全く同感です。最後に、委員長がコメントしようって言われましたけど、そのことだけです私はだから最後のコメントはなしにします。それでは次に委員よろしくお願いいたします。

委員

皆様の大変お疲れ様でした。私前半は事務局で後半はこども部ということで、ちょうど教育部長と交代になっております。私も感じました、これだけの様々な立場の方が、検討に加わっているということを改めてその学校の機能が本当にたくさんの機能があるんだなということを感じたところです。今違う所管で子供部門の施設管理しているんですが、やっぱり学校は災害時の避難所になるっていうことがそもそもそういった機能を持っているっていうところもあって、その視点は本当にとっても必要な、合わせてそのことからお子さんだけじゃなくて様々な年代の方も集まりますので、施設としては学校としての学びだけではなくてそのことがバリアフリーであったりとか、それがまた子供たちにとっても使いやすいっていうところであったりだとかそのように感じます。あとその検討の視点が子供たちだけじゃなくて他の先生からもあったようにその職員の職員室の話も出たんですけども、実は子供の学びを充実させるためには先生の環境もっていうことで、今回のお話の議論を本当に深くて、大変良い学校作りが進められるんじゃないかなということを感じました。そこを支えているのがここでちょっと検討履歴っていうのを改めて見たんですけども、この議論を実際その空間のデザインにしたらどうなるのかみたいなことを職員の専門職のチームが具体的に検討していただくか、何かその辺の組み立てもちょっとなかなか私の部署ではなかなかできないと感じながら感心しているところです。今ちょっと学校とは違うんですが保育園や学童クラブとかちょっと先ほどあったひのっち、子供の施設についてもこの個別施設計画を作っております。あの学校とちょっと違って民設民営というような手法もあるところですので、そういったところも含めて先ほど大きな金額がかかるということもありました

ので、これから財政面なども踏まえながら持続可能な施設づくりどうしていったらいいのかなってのは非常に大きな課題だと思っておりますので、前向きにしっかり取り組んでいきたいと思っております。どうも皆さんありがとうございます。

委員長 力強いご発言ありがとうございます。それでは次に、各分野の代表委員から一言ずつコメントあるいは感想をいただきたいと思っております。恐縮ですけど順番に右回りにいきたいと思っておりますので、コメントをお願いします。

委員 皆さんお世話になりました。今そのハイレベルな話を聞いて、8回の検討委員会を通して、緊張感があるけれども楽しさと学びがありました。私、教職員歴が長いのですが働く教職員の立場に立って、職員室だとか休憩スペースをどうするか、こういう話し合いって今だかつてなかったんですね。そういう新しいことにも突っ込んだ話ができてすごく勉強になりました。私はもう退職して15、6年になるんですが、皆さんにご迷惑をかけたことが多々あったかと思っております。今日も何ページかもわからなくて発言したりして申し訳なかったのですが、そういう場面でいつも委員長はしっかりフォローしてくださる、どんなことを言っても意義付けして、そして価値づけをしてくださって、助け船を出してくださる。これはもう本当にありがたかったですね。ありがとうございます。多分私が選ばれたのは一小OBとしてだと思っておりますが、現役の時、市教委へ日野一小の建て替え計画について聞きに行ったのですが、あなたが生きていくにはありませんよ、なんて言われ諦めていたのです。だけれども、何か間に合いそうですね。大丈夫ですね、そこは一番気になっていたのですが。やはりこういう会議でいろいろな意見を聞いているうちに、もし生まれ変わったら、もう1回、日野一小あるいは新しい学校に再入学をしたくなりました。特にここで学びたいな、ここで学び合いたいなという所はラーニングセンターですね。ラーニングセンターで学びたい、これが私の願いです。再入学しなくても高齢者でも学べるのではないかな、使ってみたいなと思っております。新しい学校はですね、日野のシンボルとなって、大人と子供が互いに学び合う、共に成長していく、そういう姿を夢見ながら、私は長生きをしたいと願っております。委員長はじめ委員の皆様、事務局の皆様、本当にありがとうございました。

委員長 ありがとうございます。それでは委員よろしく願いいたします。

委員 本日までいろいろとありがとうございました。私は逆に勉強させていただいたと思っております。皆様の本当にレベルの高さというのは感じておまして、私の気付かない部分であったりとか、今までの経験で知らなかった部分とかを教えていただいたと思っております。私は自主防災組織の立場で参加させてい

ただきまして、災害時の避難所としての課題をいくつか持ってこちらの方に出席してまいりましたけれども、皆様の意見を聞きましたらやはり災害時の課題というのは日常時、平常時からの課題と一致しているということに気づかされました。やはり災害時となると緊急時ということで日常とはまた離れた感覚ではあるかと思うんですけれども、平常時の対策を早めに進めていただき、それが災害時の避難場所として環境が良いということに繋がれば良いと思っております。一方で防災組織の他にも、学校環境衛生に携わる業務をやっていたんですけれども、やはりこういったハード面というところ私すごく苦手な分野でありまして、今回いろいろハード面からも物事を考える視点っていうのを教えていただいたと感じておりますので皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

委員長

ありがとうございました。それでは委員よろしく申し上げます。

委員

8回、どうもありがとうございました。私もこの年になって、建築に関することというのは全く勉強したことがなくて、まさかこの年でこんなに新しい学びをさせていただけるとは思ってもいませんでしたので、本当に声をかけていただきましたことに感謝しております。どうもありがとうございます。ちょうど25、6年前だったと思うんですが、平山小学校が旧校舎を取り壊しまして新校舎に建て直すときに、ちょうど私自主管の立場で、あの説明会に出たことがありました。そのときにもしかしたら同じような検討委員会ってたくさんされているかもしれないんですが、もう25年前のことですのでそのときに感じたことを率直に申し上げますと、何を説明してくれているのか全くわからない。学校の施設の中のオープンスペースというのは本当に私達見たことが無い施設で、一体これは子供たちに何を与えようとしているんだろうっていう驚きがありました。でもそれに対して誰かが質問をして、そのときに本当に言われた言葉が、将来的には平山小学校は子供たちがいなくなるので、ここは病院施設になるんですって言われたんです。そういうことなんだ、だからオープンスペースなのかなっていうところで無理やり納得をしながらも、やはり元々合併というところでうまくいってない学校だったので地域の方々の理解が得られずに、多分結構長い間揉め事が続いたかなというふうに記憶をしています。その後、紙面で回答くださいっていうふうにお願いをしたときに何年か後に出たのは、この紙1枚だったんです。平山小学校の概要ということでこれだけいただいて、どうぞご理解くださいという言葉で終わった。そのときには地域住民の方は誰でも出られるわけではなく、ある意味では民生委員の方とかそれなりに学校近辺で何かの役にあたられている方、学校側に味方になってくれる方のみお呼びして、すいません助けてくださいというような説明でした。それをちょっと覚えていたので今回の本当にこと細かにいろんな課題について考えるこの会は本当に素晴らしかったなと思います。何か聞かれたときに私も私のわかるこ

とであればお答えできるなというふうに感じました。すいません長くなってしまいました。学校というところでまだまだ活動させていただきたいというふうに思っております。微々たるご協力かもしれませんが、できることを一生懸命やらせていただいてこれからの人たちのために力を尽くせたらいいなと思っておりますので引き続きどうぞよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

委員長 ありがとうございました。それでは委員よろしくお願ひします。

委員 はい、ありがとうございます。市民委員という立場でありながら私にとっては恐れ多い皆さんに意見を聞いていただいて深く感謝しております。私はもう本当に学びだけだったんですけども、私のやっている学習無料塾でもほとんど高校生大学生2、30人が子供たちのために無料で学習に関わってくださってくれています。その人たちの純粋な思いや学校ってこうであってほしいというようにことをよくみんなで議論していますので、その子供たちの思いをこの出合いを種にしていけたらと思っています。私自身としてもそこがひのうちの中学生版みたいなものがあつたらいいな、その子供たちが、あの前に申し上げたんですけど、高齢者の方たちや中学生高校生の卒業生たちで自分が苦手だったからよく言っているんですけど、自分苦手だったけど先生に聞きに行けなかった、誰も頼る人がいなかった。勉強苦手だけど、今苦手な子のために何かしてあげたいと思って来ている。友達いなかったけどなんか学校ってもう1回来てみたらって、できることないかなって思っているボランティアさんが多いんですけど、そういう子供たちが帰ってくる場っていうか今の現役の人たちのために何かできる社会教育施設になっていけたらなと願っています。日野っ子教育って言葉はずっと私大好きなので、ぜひここでこのまま日野っ子教育ってとっても素敵な教育であつてほしいなと思います。ありがとうございました。

委員長 ありがとうございます。それでは委員お願ひいたします。

委員 皆さん本当にありがとうございました。ラーニングセンターについての結構いろんな皆様からもすごくいい思いつきとかとても良いコンセプトで、生徒さんとかのご意見でもすごいこんなのがあつたらいいなっていう施設の代表じゃないですけど、いい施設だなっていうふうになったものだと思うんですけども、今回初めてこの個別施設計画の表見て15年とか40年って書いてるの見て、いやそんな申し訳ないけど15年先のこのために私達話し合っていないってちょっと思ってしまつたんですね。他の災害もそうですし例えば居場所がないと途中授業中に混乱しちゃう子のクールダウンスペースを作つてほしいとかそれって15年先の話じゃなくて今すぐ解決してほしい問題として多分私も皆さんもお話したことだと思うんですね。もちろんこの計画の15年とか40年

ていうのは予算を考えていて建て替えるっていうことに基づいて試算された期間だっていうのはわかっているんですけども、その前にラーニングセンターを作るとか、オープンスペースがなくても退避するスペースを作るとか、職員室の場所を何とかするとか、災害時の何か井戸トイレみたいなものを作るとか、そういうすぐやった方がいいことの計画っていうのが、ちょっと必要なんじゃないかなという風に思いました。多様化とか従来の施設の68ページに既存校舎の現代化みたいなことで記載があるんですが、最終のスケジュール表を最初の推進計画のこの理念のすごいいろんなことが盛り込まれた理念の間にちょっと乖離があるというか、間が抜けちゃっている感じがとてもしまして、本当に今更で申し訳ないんですけども、建物の場所を大きなお金がかかる部分ではなくて今すぐでもどんどん手をつけてほしいという出された課題に関しても短期中期の中でどういうふうの実現していくかっていうことについてももう少しやってほしいなって思ったのと、ラーニングセンターに関しては図書館の設備は多分なかなかほとんど更新できない状態になろうかというふうに思われる中でやっていくためには、やっぱり人の力が要ると思うんですけど、現在でも図書館支援員の制度ってあるんです。ちょっと聞いたんですけども図書館支援員さん司書さんが配置されるのに伴って、ちょっと縮小されたというふうに伺っております、図書館支援員をやっている方から、ちょっと自分たちは結構やる気があってこういう風にしたいっていうのがあるんですけども、あまり聞いてもらえないというようなお話をちらっと聞いたこともあってですね、ラーニングセンター化していくっていうのにあたっては、そういった地域の方で図書館の支援員をやってくれるような意欲のある人の意見とか、そういったものをもっと拡充した方がいいと思いますし、あそこが放課後の居場所の一つにしても大丈夫なぐらいの組織化っていうふうにしていったりとかいうことを、ちょっと前向きに考えていただけないものかなというふうに思います。もちろん学校が今小学校とかも放課後ってほとんど多分学校の中入れないような形で、先生の許可を得て忘れ物を取りに行くくらいはできても、ひのうちの教室とかひのうちの場所以外は基本的には入っちゃ駄目ですよって形になっていると思うんですけど、それを教職員の先生たちの手間や負担を増やさないようにどうやって子供たちが使うスペースを増やしていくか。そこには社会の一般の私達保護者とか、シニアの皆さんとかそういった方の力をどんどん入れていくっていう方向でやっぱり進めていっていただきたいなというふうに思いました。すいません最後まで、バリアフリーに関する部分の経験者というような形で議論に参加させていただきましたけれども、本当に日野にこんないろんなことをされて、子供たちの教育に積極的に関わってらっしゃる方がいて、もう皆さんすごい前向きに考えてらっしゃるっていうのがわかってとても有意義で楽しくて素晴らしい会だったと思っております。ありがとうございました。

委員長

貴重なご発言ありがとうございます。改めて今のご発言を事務局は重く受け止

めていると思いますので、できることから積極的にできるだけ早くっていうことは皆肝に銘じていると思いますが、改めて認識したと思います。それからラーニングセンターをはじめ、例えば放課後子供教室などについても学校の教職員に負担をさせるのではなくて、地域がそういうところを支える余地があるんじゃないかあるいは可能性があるんじゃないかというご発言があったと思いますが、これは施設計画とはちょっと離れた課題ですけどもそういう地域が全体として学校をサポートするっていうようなことについてもご示唆をいただきましてありがとうございます。よく受けとめさせていただきました。それでは委員お願いいたします。

委員

私も放課後子供教室の立場でこの会議に参加させていただきました。くしくも今委員からありましたように私も放課後の子供の居場所というのが本当になくなってしまっていて、いろいろなスペースを学校がやはり確保したい。わかるんです、学校の教員を最優先にこちらも考えたいのでやはりあまりこちらの意見ばかりを押し通すことはできないんですけれども例えば図書室、本当広くて、本もあるし子供たちって思ったほど、いたずらしません、多少しますよ。ただ地域が見守っています。放課後子供教室はもう地域の方に見守りで、もう地域の子供は地域で育てるこれがもうコンセプトなので、そうなりとやはり学校も今ものすごく広げてくださって地域が入ってきてさほど目くじらを立てない。17、8年前はもうとにかく嫌なんですね、外部の人が学校に入ってくるのをものすごく嫌がっていましたけれども、今本当にそれが地域の人に力を借りればこれだけ自分たちが楽をするわけではないんですけれども、学校の先生たちがしなくてもいい、そこが放課後はもう任せましょうと、地域の大人に任せましょうって腹くくってくれば例えば、図書室、あそこがもう拠点になるとか、例えば家庭科室使ってないからここを開放して、この広い空間を子供たちに与えましょうという、そうしてくれば、放課後もし教室が空き教室がなくてももっともっと放課後の子供教室が膨らんでいくのかなと。そこにましてや新たな社会教育施設というふうになれば、もっと地域の方が例えば何かを学びに来ている、そこに子供たちも参加するみたいなそういうのができていけばもう本当に夢のようなことですが、ぜひそれを夢じゃなく、15年後くらいになってしまうのかな、もうちょっと早く実現してほしいんですけれども、一つそういうふうないい事例ができれば、きつともっと作り変えなくてもできる。今の既存のものでどう膨らましていくかが考えられると思うんです。そういうものを考えていく、もうこれは新しく作るものではあるけれども、きつとこれが出ることによって、いや今あるものでできるんじゃないかなっていう工夫をきつとみんなしてくれるんじゃないかなっていうふうに思いながら、私はもっともっと学校と地域が仲良くできると思っていますので、そういう中で地域の力をぜひ使ってもらいたいなと思いながら勉強させていただきました。本当にありがとうございました。

委員長

ありがとうございました。それでは委員お願いいたします。

委員

今の委員のお話を受けての部分ですが、元々従前からの学校というものの存在ってというのは学校がなくなったら駅がなくなったらとかっていうそういうくくりで言われるように重要だなと思っていますが、その発想を教育の大切さっていうことは維持しながらも変えていかないと、これからの学校は成り立たないんだろうなと思ってます。もうそもそも地域の人材に入っていて、教育活動が行われるだけでなくその施設も含めて、なかなか本校の教員を顔を思い浮かべてもそれに関しての「ん？」っていう疑問を持つ顔は思い浮かびますけれども、本校も含めてそういうことを変えていかないと駄目なんだろうなと、そうしなければいけないという認識を改めて持ちました。ただ学校はもうこれからも変わるでしょうけどもいろいろなことが求められるものが違って、今などは居場所としての学校を確保してくださいみたいなそんなことも言われますので、それをどうやって両立させるかなと思います。ただ今までの学校でないものを作ろうとしたらそのマネジメント、学校に求めないっていう考え方も併せて進めていかないとうちで言えば、普通の学校の組織で言えば、副校長は何人いても足らなくなると、そんなことを思いました。あと今回は一小をちょっとイメージした話なんですけど、かつていた自治体で言うと、駅に比較的近いところでそこに大きな学校を作って整備をすると、その周りに人が集まり、新入生が増え転入生が増え、計画していたものがあつという間にキャパオーバーになってしまう。結果的には抽選だ、いやそれおかしいだろうプレハブだつという事例もあります。ですので、そうならないように他でも一緒に作ってくださいじゃなくてその長寿命化も含めて、その場所でも十分なことができるよなということに動ければいいなと思います。加えてなんですけどこれもう私、ここに来たときからずっと、この計画ではないけれどもそのすぐそばにあるんじゃないかなって思うのは整備計画などで、本校などは第三中学校ですけどね、13 ページに書いてあるのかな。将来的な推計になるということで日野第三中学校学級規模が 2050 年には 6 となっていますが、これは 2050 年に 6 になるというのもその前からずっと相当前から 6 になっているのかなと。これらを本文には書いてありますけどもどうやって適正配置を進めるかっていうことなんですけど、その適正配置の中になんか大きなウエートとして、小中学校を一緒にするというのをしないでいかないと施設を数を減らさないままやっても、なかなかうまくいかないんだついうことは、この計画のすぐ脇にあるんだついうことは申し上げたいと思います。最後学校の当事者として委員より、いいイメージを自分の学校として持っていろいろとお話いただきました。私は逆に長寿命化の方のイメージでも含めて、話さなければいけなかったかもしれませんが、それには十分な役割が果たせてないかもしれません。お許しいたいて、あの今後のいろいろな制約が変わっていく中での学校の運営には努めていき

いなと思います。ありがとうございます。

委員長 ありがとうございます。それでは学識の先生方、順番にお願いできますか。

副委員長 これまで検討委員会の場に参加させていただいて、本当にありがとうございました。先ほど委員が「学びがあった」とおっしゃっていたのを聞いて、私も同じく、この委員会で学びがありました。というのも、私達はこの8回で「どんな学校を作りたいですか」という問いに向き合ってきたと思うんですけども、簡単そうで意外と難しい問いだったと思いました。どうしても学校というと、与えられる環境といいますか、もともと学校があって、そこに自分自身が子供として通う、あるいは親として通わせる、また、先生としてそこに赴任、異動してくるという形ですから、何か当たり前にあるものだと思っているところ、それを改めてその当たり前を問い直して、時代に合わせて変えていくとか、あるいは時代が変わっても変わらないものを残していくとか、そんな議論ができました。ですので、学びといっても単に知識が増えるというよりも、何か自分の価値観が新しくなったり、考え方が変わったりするような、そんな検討のプロセスに参加いただいていたんだと改めて振り返ることができました。その際にやはり一つは、時代を見据えて、子供たちの意見や他の事例をはじめ、事務局を中心にフィールドワークやワークショップを非常に丹念にしていたいただきました。印象に残っているのは、前日に実施した生徒たちとのワークショップの結果を、この検討委員会をすぐお持ちいただいたことで、かなりそこには事務局のご努力があって、でもそれがあったからこそ、私達もこの8回という非常に限られた中で、充実して議論することができたんだと思っています。まずはそこに感謝を申し上げます。それから、視野を広げていくということがもう一つです。学校というと、どうしても学校は学校という形や枠の中で、何か学校の世界だけで学校づくりを考えてしまいがちですけども、そこに社会教育施設づくりという看板をしっかりと掲げて、議論の中身としても、やはり社会教育の場としてどうなのかということを考えていく。しかもそれは、子供たちにとっての社会教育というものもそこに含まれていました。やはり、生涯にわたっていろいろな人と関わりながら学び続けていくというその基礎は、子供の頃に作られるんだということも改めて確認できました。そのためには、社会教育の機能を少し学校の中に盛り込んでいくことが大事だということがわかりました。いずれにしても、子供たちが毎日通う場です。人生の初期のすごく貴重で大事な時間を長く過ごす場所、その場所がどんなふうにあってほしいのか、それから市民の方にとっては地域の核ということがありましたけれども、それは昔のような地域共同体というよりは、やっぱりこれから学校を一つの核にして、新たな緩やかなコミュニティを作り直していかなきゃいけない時代でもあると思います。その姿についても議論できたかなと思います。検討委員会への参加はこれで終わってしまいますので、一つゴールのような感じ

を持てるかなと思っていたら、全然そんなことはありませんで、むしろこれがスタートということです。特に行政の方々には、この計画をぜひしっかりと実現していただきたいですし、いろいろな細かい変更があるかもしれないんですけども、やっぱりこの計画の魂というのを忘れなければ、具体的な部分は実現すると思います。ぜひ大変かと思いますが、しっかりと進めていただき、私としてもそれをできれば40年後まで見守っていきたいと思います。ありがとうございました。

委員長

ありがとうございました。それでは副委員長お願いします。

副委員長

最初に感想でちょっと1つ思ったことが、本当に皆さんありがとうございました。勉強させていただきました。勉強させていただいたってということでは委員長に私が職場の校長会で役員やっていたときに、もう10年も前になるかと思うんですが、文部科学省で新たな学校作り検討委員会っていうのはあってそこでも委員長が座長をされていてですね、いろいろ勉強させていただいて今回も本当に勉強させていただいたなというふうに思いました。特に2回目、3回目でしたっけ、先進的なね学校の紹介をしていただいて、そのときに階段はただ上り下りするだけじゃなくてそこでいわゆる集会を段違いで座って集会で使ったりとか、学校にカフェがあってもいいんじゃないかっていうね、こういうときすごくなんていうか心がすごく驚いてですね、いわゆる皆さんおっしゃったように、既成概念やっぱり捨てて考えていかないと新たな学校とかこれからの施設っていうものはね、やっていけないんじゃないかなっていうふうなその衝撃を受けました。学校にカフェなんてちょっと考えられないですけど、でも確かにね社会教育施設と一緒にいってっていうふうなことを考えるというふうなことで、そういう意味ではこの中にはすごくやっぱり斬新的なね、皆さんもおっしゃったように、物が入っていて本当に自慢できる新たなものになっていくんじゃないかなっていうことが一つです。それからもう一つは、学校教育っていうのは、毎年毎年いろいろな教育改革っていうのをされていて一番新しいところで言うと、個別最適それから協働的な学びというような例は、日本型の教育っていうことなんでしょうけれども、そういう新しい教育が出てですね、それをどういうふうに改善していくかっていうのは、教師の努力なんですよ。研修とね、だけどなかなかそれがうまくいくまでには時間がかかるんですよ。私が思ったのは逆にこういう施設がね、そういうふうな施設の中に逆に先生も子供も入れればそうせざるを得ない。個別最適な授業をそこを使うには個別最適な授業をしなければ、それ無駄になってしまうんじゃないかっていうことですよね。このワークスペースみたいな、つまり施設が新しい教育を進めていくね、新しい指針になるんじゃないかな。これまでは教師の努力に頼っていたところが、そういうふうなことになっていくんじゃないかなっていうようなことをいろいろ皆さんの話を聞いたら検討していく中ですごく感じたそれが二つ

です。それで一つ最初のところで言えなかったんですけど、コンセプトがあるじゃないですかみんなが楽しく通いたくなる学校ってね。これを見ると、いわゆる理想の学級経営とか学校経営のコンセプトっていうふうになんか取っちゃうんですよ。それだけ見ると、だからこの施設がどういうふうになっていくんだっていうふうなことをうまくセットで持っていかないと、それだけ聞くと新しい学級経営の考え方かなみたいになってしまうので。そこはうまく使ってってもらいたいなっていうそんなふうに思いました。ありがとうございました。

委員長

ありがとうございました。学識の先生方には深い見識で副委員長をしていただいております。深くお礼申し上げます。本日欠席されている委員からコメントを寄せていただいているようですので、事務局から紹介をお願いいたします。

事務局

事務局でございます。今日お仕事の都合でお休みの各委員よりコメントをお預かりしましたので代読させていただきます。まずはじめの委員です。本日は検討委員会最終日にも関わらず欠席となってしまう申し訳ございません。昨年8月から1年3ヶ月という短い間でしたが、委員長、お二人の副委員長をはじめ、検討委員会の皆様、それぞれの立場から出される意見は日頃の学校の内部にいと見落としてしまうような意見も多く、たくさんのご意見をいただきました。微力ではございますが、検討委員会に関わらせていただけたことはとても貴重な経験となりました。また、事務局の皆様におかれましては、資料や議事録などいろいろご準備いただきありがとうございました。これからは地域住民の1人として日野市の教育の発展に関わっていければと考えております。ありがとうございました。以上です。続いての委員です。最終日に欠席し申し訳ございません。会議を通して皆様が新たな学校に求めていることを期待していることをお聞きすることができ、校長という立場から私自身もとても勉強になりました。これからは加速度的に社会が変化する時代です。学校教育にもこの先大きな変化が起こると考えられます。これから具体化される新しい校舎には、そのときに対応できるような柔軟な活用の仕方ができるものを期待しています。また、今も学校の教育活動は地域の皆さんに支えていただいております。今後もこれは変わらないと思います。本委員会のまとめが日野本町地区公共施設再編基本構想基本計画の策定に繋がっているとお聞きしています。地域の皆さんに愛され、大切にされる学校になるよう、どうぞよろしく願いいたしますということです。なおもうお一人の委員につきましては本身体調不良で急遽ご欠席のため、コメントをお預かりすることができませんでした。以上です。続きまして、今委員さんから一言ずつご発言をいただきましたので、事務局を代表しまして教育長より一言お礼、ご挨拶をさせていただきます。

教育長

教育長でございます。この場をお借りしまして一言御礼を申し上げます。

できればというふうに思います。まだ出来上がっておりませんで、こちら出来上がるのは年度末になりますので、まだ途中、まだ素案という段階ではございますけれども、今回第8回がこの検討委員会の最後ということで、一旦、一つの区切りということで御礼を申し上げたいというふうに思います。委員長、そしてお二人の副委員長、そして委員1人1人の皆様の本当にご経験と熱意と情熱を注いでくださって、この150ページにわたるものに今繋がっているというふうに思います。今一言ずついただいた言葉にも象徴されているように思いますけれども、それぞれの委員の皆様が真剣にこのテーマとですね、向き合っていたこと、このことに心から感謝を申し上げたいというふうに思います。8回の会議だけではなくて、14回のワーキングもあって、22回にわたってそれが1年4ヶ月という短い間に集中的にご議論いただきました。このテーマ自体がですね、このミッション自体が非常に難しく、また重要なテーマであったというふうに思います。それは日野市にとってはもちろんですけれども、日本全国を見ても学校施設と社会教育施設というのは、公共施設の太宗を占める施設であり、その施設の今後40年を見据えた長いスパンでこれをどうしていくのか、それをコンセプトからかなり具体的な詳細に至るまで、幅広い射程でご議論をいただいて素案をまとめていただきました。また、ハードだけの議論をするんじゃなくて、今回本当に私自身感じたのは、ハードの議論ってハードだけじゃなくてソフトと表裏一体ですので、そこを一体で議論しなければならぬ。だからこそ、その過程の中でこのテーブルの上だけの議論だけではなくてですね、現場・フィールドワークをたくさんして、ここはもう事務局も、この場をお借りして私から申し上げるのもあれかもしれませんが、頑張ってお疲れ様でしたというふうにコンサルの皆様にも感謝を申し上げたいと思いますし、そのフィードバックの中で小学生中学生高校生、そして保護者、様々な関係の方々からの声を吸い上げてそれをこの委員会にフィードバックをさせていただいて、それも含めてご議論いただいて取りまとめをいただいたこと、これは並大抵のことではないなというふうに感じております。ここでベースが、土台が完成しつつある、その素案ができつつある、というところでございます。これを全て実現しますというのはなかなか事務局としても難しいところではあるんですけれども、これをベースにしてこれに真剣に向き合っただけから取り組んでいきますということは、事務局の長として申し上げさせていただいて、御礼のご挨拶とさせていただきたいというふうに思います。本当にこの1年4ヶ月の間ありがとうございました。

委員長

ありがとうございました。教育長から大変ありがたいお話をいただいて、私自身ハッピーな気持ちになりました。ありがとうございました。ちょうど時間です。全ての議事が終了しましたので事務局に戻します。よろしく申し上げます。

事務局

委員の皆様、1年以上にわたり検討委員会の出席並びにご意見いただきまして本当にありがとうございました。本日をもちまして検討委員会は終了となります。この間、委員長には検討委員会の議事進行に加え、14回にわたるワーキンググループの座長としても技術的な助言を多くいただきました。ここで新たな学校づくり・社会教育施設づくり検討委員会を総括いただきまして、最後に閉会の宣言をお願いできればと思います。委員長よろしく願います。

委員長

いや、もう教育長がお話になったのでよろしいかと思えますけど、私の感想はさっき委員みなさまがおっしゃったとおりです。本当に委員の皆様お一人一人レベル高かったり、大変幸せで議事進行も非常に楽しくできました。私いろいろなところでこういう類似の委員会をかなり多く経験してきましたけども、皆さん一人一人が非常に高い見識で楽しく仕事できました。深く敬意を表します。それからちょっと別にお世辞じゃないですけども、支えてくれた事務局が非常に優秀で、ここの教育委員会は優秀だなと思って感謝しています。ありがとうございました。多分結構できたレポートって今のところ自治体がつけているレポートに比べると、群を抜いて高い水準じゃないかと思えますが、モデルになるような仕事だと思います。最後に教育長がおっしゃったように、これが市にとって非常に大きな課題になりますので、しかし未来を支える子供たちの環境ってということがやっぱり我々一番大事なことです。日野市の将来を期待させていただきます。1年4ヶ月ありがとうございました。